様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　６月２１日現在

機関番号：３４１０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００７～２００９
課題番号：１９５２００６９
研究課題名（和文）宗教都市における神仏分離の実態的研究
—伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に—
研究課題名（英文）Situational Analysis on the Separation of Shinto and Buddhist Deities in the Sacred City, Ise, where the Grand Shrines of Ise are Located
研究代表者
櫻井　治男（SAKURAI HARUO）
皇學館大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：００００８７７３５

研究成果の概要（和文）：

本研究は、①神仏分離時期の行政文書（廃仏毀釈・神葬祭関係が中心）のデジタル画像化と公開、②寺院を中心とした廃仏毀釈状況の検証、③新たな葬儀形式である神葬祭の受容期における寺院と人々との関係などについて研究を進展させることを主な目的とした。それぞれの成果の概要は次の通りである。

①については、三重県庁所蔵の関係行政文書、約 5000 枚のデジタル画像化を行ない、三重県史編纂室、皇學館大学、三重大学の 3 か所においてパーソナル・コンピューターによって閲覧することを可能とした。また、三重県神社庁所蔵の関係文書および神宮文庫において研究上重要な史料の存在を確認することができた。但し、これらの史料は膨大な量に及び、研究の推進上はその一部を活用するにとどまっており、今後の研究課題として残された。

②寺院を中心とした廃仏毀釈状況の検証は、なお時間をかけて明らかにすべき課題である。本研究では、関係史資料(文書・絵図)の確認と一部資料の収集を試みたが、内容的な検討は必ずしもできず今後の研究展開に委ねることとなった。しかしながら、関係資料の一部を研究報告書に収録し、研究基盤の一端を公開する役割を担うことができた。

③の神葬祭化の問題は、本研究グループが主体となり行なったシンポジウムを通して、研究の方向性や観点などを明らかにすることができたが、実生活における状況の解明や、更なる史料の収集および内容検討は今後の課題となった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research project is to analyze the situation of the separation of Shinto and Buddhist deities called “Shin-butsu-bunri” which was adopted as a religious policy by the new government at the beginning of the Meiji Restoration in 1868. For this analysis we focused on a case study of the separation at Ise city which is known as the most sacred Japanese city because of the site of the Grand Shrines of Ise. It was a very interesting phenomenon that though there were about 270 Buddhist temples in Ise before the separation, these decreased to about 70 temples after the religious policy was adopted. This statistical change in the number of temples gives us enough reason to ask many things, such as why there were so many Buddhist temples in the “Shinto town of Ise”, what kind of roles those temples fulfill for the people’s daily life, who is the person to push such an

extreme religious policy here and so on.

Our research project was planned following three goals: 1) to find and arrange the historical documents on this religious policy and to release this information with digital photographs, 2) to inspect the various situations of the separation of Shinto and Buddhist deities and to pursue those abolished temples and 3) to research the meanings of the changes of funeral ceremony from Buddhist rite to Shinto rite and its influences for ordinary people.

As an achievement of the above goals we would like to conclude the following results. First we could collect over 5,000 digital photographs of historical documents with the cooperation of the official compiling division of Mie prefectural history where those documents were stored. Those documents, Mie-ken-gyousei-bunsho, have a value of the first resource to develop the further research of religious policy at Ise city. And digital photographs are shared with this division, the Shinto Institute of Kogakkan University and the study of Professor Tsukamoto of the Faculty of Humanities, Law and Economics of Mie University for the mutual reference of researchers. Secondly, our contribution is not enough to analyze various situations of the relationship between Buddhist temples and Shinto shrines. But some attempts of reprinting and reproducing historical documents in the report will be useful for the next step of this research field. Thirdly, the changing of the funeral ceremony from the Buddhist rite to the Shinto rite is still an important research point to understand the idea of divinity and folk customs. We could collect some necessary documents and could make more clear the changing time and situations of community where it was decided to change the funeral ceremony and also the ordinary people. This change caused the disappearance of many Buddhist temples and monks related with the funeral ceremony. But the questions as to why these changes were made possible for people still remain for further research.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２００７年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| ２００８年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| ２００９年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,100,000 | 630,000 | 2,730,000 |

研究分野：宗教学
科研費の分科・細目：哲学・宗教学
キーワード：神仏分離、廃仏毀釈、伊勢神宮、神葬祭、宗教都市、度会府文書、三重県行政文書、神都の廃寺

１．研究開始当初の背景

本研究は、日本宗教を特徴付ける神仏関係について、明治維新期の神仏分離に焦点を当て、その実態を確実な史料に基づきながら明

らかにすることを目指した。神仏分離は明治新政府の施策として実施されたが、それは全国に及ぶものである。そこで、本研究では、日本を代表する神社である伊勢神宮の所在する宇治・山田（現伊勢市)を対象地とし、関係史資料の発掘と活用を図るとともに、宗教学、神道学、仏教学、地域史研究で成果をあげてきた研究者による共同研究の可能性を探ってきた。この研究グループは、これまで伊勢神宮関係の近世期史料の解読などを進めてきたところであるが、神仏分離を中心とする実態解明とその前史となる神仏関係に共通の関心を寄せるに至った。幸い、明治初期に宇治・山田の行政を司った度会府の関係資料が、三重県史編纂室および三重県神社庁に保管されており、また伊勢神宮の所管になる神宮文庫においても神仏関係、神仏分離を解明する文献資料が多数所蔵されているところで、いずれも所蔵者の積極的な協力を得られる状況となり、各研究者の専門性を生かしながら、研究を開始するに至った。

２．研究の目的

本研究の目的は、神仏分離を単に神道側や仏教側の得失的な観点から論じる傾向を脱却し、この施策が如何に日本近代の宗教の歩みを形成してきたか、また神仏分離と言われる「分離」とは何を意味するのか、さらにはその前提として位置付けられている神仏習合の「習合」とは何かを、伊勢神宮の所在する宗教都市における神仏関係を通して明らかにする目標を立てた。具体的には、神宮を在地にあって支える社会、すなわち山田・宇治という都市空間における神仏関係、とりわけ近世初頭から明治初年の神仏分離にいたる間の夥しい数にのぼる寺院が存在してきた意味を追求するとともに、それらの機能を山田・宇治における人々の生活との関係や神仏分離に伴う宗教の構造変化の様相を含め緻密に検証することにあり、①神仏分離時期の行政文書（廃仏毀釈・神葬祭関係が中心）のデジタル画像化と公開、②寺院を中心とした廃仏毀釈状況の検証、③新たな葬儀形式である神葬祭の受容期における寺院と人々との関係などについて研究を進展させることを目的とした。

３．研究の方法

３か年の研究における基本的な方法は文献資料に基づいた研究を目指すこととした。そのために、神仏分離に関する第１次史料の収集とその活用度を高めるためのデジタル画像の整理を行ない、研究の共通基盤形成に努めることとした。そして、神仏分離に伴う廃寺の状況とその施策推進側の目指したところ、さらにそれを受けて神葬祭が一般に広がる様相についての解明を目指す上での関係資料の収集、整理にあたることとした。

その為に、研究打合せ会を縷々開催して情報共有を行なうとともに、研究協力者とともに全員で史資料の確認と収集を実施した。

また、各研究者が、それぞれの専門分野の視点から個別にテーマを持つことで内容の深化を試み、それらの成果をシンポジウムおよび学会発表という形で公表し、研究の方向性や他事例による比較を行なうことで内容を高めることとした。

４．研究成果

本研究では、期間内の目的として①神仏分離時期の行政文書（廃仏毀釈・神葬祭関係が中心）のデジタル画像化と公開、②寺院を中心とした廃仏毀釈状況の検証、③新たな葬儀形式である神葬祭の受容期における寺院と人々との関係などについて研究を進展させることとした。それぞれについて成果の概要と今後の課題展開について述べておきたい。

①については、その目的を達成した。また、

三重県庁所蔵の関係行政文書以外に、三重県神社庁所蔵の関係文書と新たな資料の存在(絵図)、神宮文庫において研究上重要な史料の確認を行なうことができた。これらの史資料は膨大な数量に及び、研究の推進上はその一部を活用するにとどまり、史資料の書誌情報を把握し、それぞれの成立や性格を踏まえて進展させることは今後の課題として残された。

宇治・山田における神仏分離が、明治維新後に設置された度会府の関係者の強い意向のもとで実行されたことが本研究を通して指摘されたが、②寺院を中心とした廃仏毀釈状況の検証は、なお時間をかけて明らかにすべき課題である。本研究では、関係史資料(文書・絵図)の確認と一部資料の収集を試みたが、内容的な検討は必ずしもできず今後の研究展開に委ねることとなった。しかしながら、関係資料の一部翻刻と原本とを冊子報告書(『宗教都市における神仏分離の実態的研究―伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に―』)に収めることができ、研究基盤の一端を公開する役割を担えたのではないかと思う。

③の神葬祭化の問題は、本研究グループが主体となり行なったシンポジウムを通して、研究の方向性や観点など明らかにすることができたが、関係史資料の内容検討や収集は今後の更なる研究展開に期待したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①塚本明「近世伊勢神宮領における神仏関係について」(『人文論叢』27、三重大学人文学部文化学科、2010 年、15-34 頁)

②櫻井治男・牟禮仁・河野訓・本澤雅史・塚本明「シンポジウム　宇治・山田と神仏分離」(『皇學館大学神道研究所紀要』第 26 輯、平成 22 年 3 月、33－89 頁)

〔学会発表〕（計２件）

１)シンポジウム

平成 20 年度皇學館大学神道研究所公開学術シンポジウム「宇治・山田と神仏分離」、平成 20 年 11 月 29 日、午後 1 時～5 時 30 分
場所：皇學館大学(伊勢学舎・４号館・431 教室)、主催：皇學館大学神道研究所、共催：宗教都市における神仏分離の実態的研究グループ
内　容：開催趣旨説明(櫻井治男)、〈個別発表〉「宇治・山田における近世の神仏関係」(塚本明)、「宇治・山田における神仏分離の度会府の役割」(牟禮仁)、「宇治・山田における維新期の寺院と廃寺寺院の変遷」(河野訓)、「宇治・山田の諸社と神仏分離の実態」(櫻井治男)、「宇治・山田における神道葬祭制度と儀礼の展開」(本澤雅史)、コメント(藤本頼生・石原佳樹)

２）学術大会発表

日本宗教学会第 68 回学術大会(於：京都大学)
(Ⅰ)パネル「神仏分離研究の現代的意義―神仏関係史の再構築を目指して―」、平成 21 年 9 月 13 日、13 時～15 時、吉田南総合館西棟共西 23 教室(第６部会)、司会：櫻井治男、パネル主旨・進行方法等説明(櫻井治男)、〈発題〉①「近世・近代の神仏関係の位相」(阪本是丸・國學院大學神道文化学部教授)、②「宗教都市宇治山田における神仏分離の諸問題」(牟禮仁)、③「近世における神仏関係―習合と分離―」(澤博勝・福井県立歴史博物館主任学芸員)、④「日本と中国における仏教と固有の宗教との交渉の比較」(河野訓)、〈コメンテーター〉鷲見定信(大正大学人間学部教授)
(Ⅱ)パネル「神仏習合・神仏分離における神職・僧侶の諸相―神仏関係史再考―」、平成 21 年 9 月 13 日、15 時 15 分～17 時 15 分、吉田南総合館西棟　共西 23 教室(第６部会)、

司会：藤本頼生、パネル主旨・進行方法等説明(藤本頼生)、〈発題〉①「賀茂別雷神社における神仏関係の構造—神主・供僧相論を中心に」(太田直之・國學院大學人間開発学部准教授)、②「古代・中世の神社組織における神仏関係」(加瀬直弥・國學院大學研究開発推進機構講師)、③「伊勢の神葬祭から見る神仏関係」(本澤雅史)、④「石川県内における神仏分離」(由谷裕哉・小松短期大学准教授)、〈コメンテーター〉　佐藤眞人(北九州市立大学文学部教授)

＊上記２つのパネル内容は、『宗教研究』(363号・第六十八回学術大会紀要特集、2010年3月、日本宗教学会、156－168頁）に掲載。

〔図書〕（計２件）

①櫻井治男『伊勢市史』(第8巻　民俗編、共著、2009年、伊勢市総務部)、「第4章社会変動と民俗・第3節　近代と宗教変動」652-685頁に「神仏分離」「神葬祭」にかかる項執筆。

②櫻井治男・牟禮仁・河野訓・本澤雅史・塚本明編著『宗教都市における神仏分離の実態的研究—伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に—』(科学研究費補助金(基盤研究（C）)報告書、2010年3月、総170頁)

６．研究組織

(1)研究代表者

櫻井　治男（SAKURAI HARUO）
皇學館大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：００００８７７３５

(2)研究分担者

牟禮　仁（MUREI HITOSHI）
皇學館大学・神道研究所・教授
研究者番号：９０２５７７４１

本澤　雅史（MOTOZAWA MASAFUMI）
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：７０１７４３４９

河野　訓（KAWANO SATOSHI）
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：２０３２９９０７

塚本　明（TUKAMOTO AKIRA）
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：４０２１７２７９

(3)研究協力者

藤本頼生(FUJIMOTO YORIO)
神社本庁総合研究所録事

石原佳樹(ISHIHARA YOSHIKI)
三重県生活文化部　三重県史編さんグループ

八幡崇経(YAHATA TAKATSUNE)
皇學館大学神道研究所研究嘱託